

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	129人	社会	128人	数学	127人
	理科	128人	英語	128人		

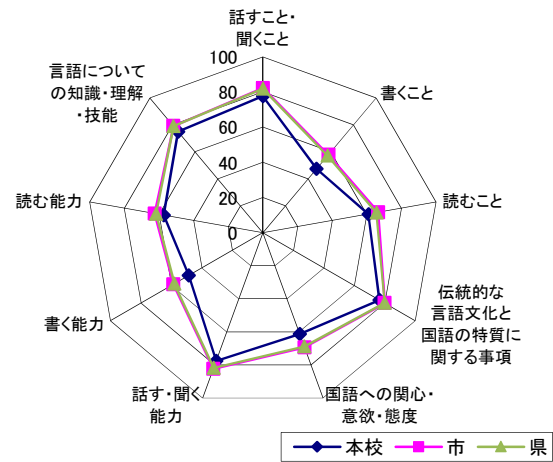
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	77.6	82.3	81.8
	書くこと	47.4	58.0	57.2
	読むこと	61.0	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.5	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	61.3	69.4	68.8
	話す・聞く能力	77.6	82.3	81.8
	書く能力	48.6	58.8	58.1
	読む能力	57.3	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	75.1	79.2	79.1



★指導の工夫と改善

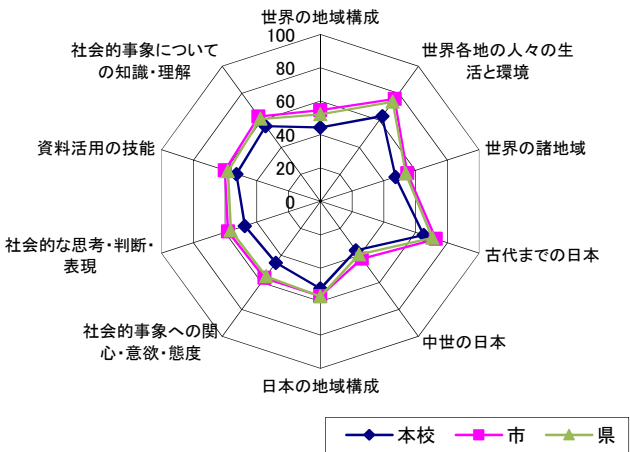
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し合いの内容を聞き取る問題では、話の内容を正確に聞き取ることができている。 ●相手の発言や工夫したこと聞き取ることの正答率が低い。	聞き取ることは得意だが、自分の意見の発表に自信が持てず苦手意識がある生徒が多い。国語の授業の中で、分かりやすい話し方の工夫する活動を取り入れ、人前で話す機会を増やす。
書くこと	○レポートについて、伝えたい事実や事柄について根拠を明確にして書く問題では県の平均に近い正答率である。 ●作文について全体として正答率を市の平均、県の正答率とともに大きく下回った。	作文の課題については、設問にある条件を理解できるようにする。授業の中に短作文を書かせる時間を取り入れて、型や例文を示しながら文章を書く習慣を身につけさせる。
読むこと	○説明文の文章の展開や文学作品の登場人物の心情を捉える問題は高い正答率である。 ●説明文の展開に即して要旨にまとめたり、文学作品の文章の表現の特徴を捉える問題の正答率が低い。	授業の中で文章に使われている語句の意味をしっかりと捉えるように意味調べを予習する。文章の展開に即して内容をとらえる作業に重点を置きながら、接続詞に注目して要旨をとらえる方法や指示される内容を理解する力を継続して身につけさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○全体として、市・県の平均に近い正答率である。文節の関係についての理解は県の正答率を上回っている。 ●既習漢字の書きの問題はすべての問題で県の平均を下回った。また、単語についての理解も課題がある。	「読めるけど書けない」。小学校での既習漢字を含め、学年配当の漢字を継続的に練習し、漢字を使う習慣を身につける。 文法に苦手意識を持つ生徒が多いので、生徒の実態に沿った授業の展開や反復練習などを工夫して行い、定着を図る。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	44.4	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	63.2	75.9	73.7
	世界の諸地域	47.4	54.8	53.9
	古代までの日本	65.1	72.7	70.5
	中世の日本	36.2	42.4	39.3
	日本の地域構成	52.2	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	45.4	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	47.6	58.1	56.4
	資料活用・技能	52.8	60.1	58.2
	社会的事象についての知識・理解	55.7	62.9	61.1



★指導の工夫と改善

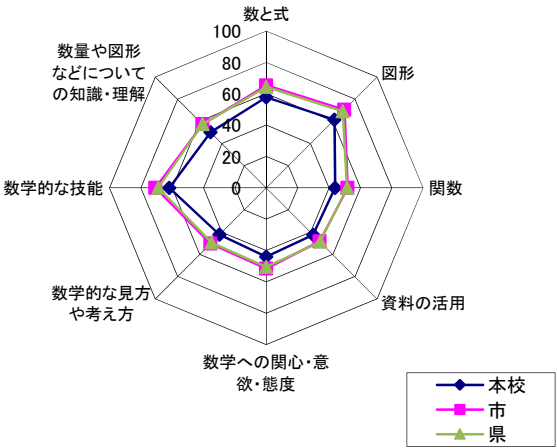
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○モルワイデ図法の特徴について把握する問題は市の平均に近い正答率である。 ●方位や世界の地域区分についての問題の正答率が市の平均、県の正答率とともに大きく下回った。	地図の違いについての問題の正答率は高かったが、正距図法についての正答率が低かった。地理の時間で地図を使うときに、地図の特性について簡単に復習する時間を設けていく。
世界各地の人々の生活と環境	○高山気候の雨温図を把握する問題は市の平均に近い正答率である。 ●乾燥した地域や冷帯気候の人々の暮らしについての問題の正答率が市の平均、県の正答率とともに大きく下回った。	もともと複数の資料をもとにする問題が苦手であり、今回のもそのような結果となった。特に乾燥した地域や冷帯気候の人々の暮らしについての問題の正答率が低かったため、北海道の単元を行う際に、冷帯気候についても復習し、正答率を向上させていく。
世界の諸地域	○ヨーロッパ州、北アメリカ州、アジア州の問題は市の平均に近い正答率である。 ●オセアニア州、アフリカ州の問題の正答率が市の平均、県の正答率とともに大きく下回った。	ヨーロッパ州、北アメリカ州、アジア州などニュースでよく話題になる地域や興味のある地域の正答率はそここの正答率であるが、それ以外のなじみのない地域の正答率が低い。大きなニュースがあったときに上げたり、授業で折にふれて話題にしたりして、興味関心を高めて正答率を上げていく。
古代までの日本	○奈良時代、平安時代の問題は市の平均に近い正答率である。 ●飛鳥時代の問題の正答率が市の平均、県の正答率とともに大きく下回った。	資料をもとに説明をする問題の正答率が低かったため、授業にて問題演習を取り入れていく。
中世の日本	○御恩と奉公や、建武の新政についての問題は市の平均に近い正答率である。 ●執権政治や戦国大名の統制の仕方の問題の正答率が市の平均、県の正答率とともに大きく下回った。	資料をもとに説明をする問題の正答率が低かったため、授業にて問題演習を取り入れていく。
日本の地域構成	○標準時子午線の問題は市の平均に近い正答率である。 ●排他的経済水域の問題の正答率が市の平均、県の正答率とともに大きく下回った。	もともと複数の資料をもとにする問題が苦手であり、今回のもそのような結果となった。ひき続き授業中に問題を取り入れていく。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	57.8	65.4	64.4
	図形	61.4	70.5	69.0
	関数	43.9	51.9	51.5
	資料の活用	42.3	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	43.9	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	42.2	50.2	49.4
	数学的な技能	61.8	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	50.2	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

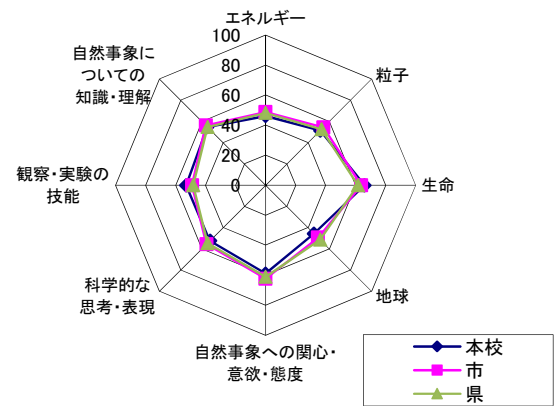
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正負の数の計算や文字式の計算では市の平均に近い正答率である。また、無回答が少ないことから、最後まであきらめずに問題に取り組んでいる様子が見られる。 ●方程式の問題の正答率が市の平均を大きく下回っている。特に利用の問題では無回答もみられる。	基本的な計算のルールを再確認し、繰り返し練習を行うことで、速く正確に解く力を身に付けさせる。また、方程式の利用は解法の手順を再確認し、確実に得点につなげられるよう指導していく。
図形	○平面図形を回転させてできる立体について考える問題は市の平均に近い正答率である。 ●面積や、体積、表面積を求める問題の正答率が市の平均を大きく下回っている。	面積、体積、表面積の公式をしっかりと確認させる。また、場合によっては小学校の内容も含めて復習していく必要がある。
関数	○変数の値の変化を求める問題や、反比例の式を求める問題は市の平均に近い正答率である。 ●グラフの問題や、利用の問題の正答率が市の平均を大きく下回っている。	比例と反比例の違いを理解したうえで、式からグラフを求めることや、グラフから式を求めることなど、基礎基本の復習が必要となる。また、利用の問題に対応するために、文章から情報を読み取る練習をしていく。
資料の活用	○資料から情報を入手するために必要な値を選ぶ問題は市の平均に近い正答率である。 ●最頻値などの値を読み取る問題や、ヒストグラムを用いて説明する問題の正答率が市の平均を大きく下回っている。	資料から様々な情報を読み取るために多くの値が存在することを再確認させ、適切な値を求めるよう指導する。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	46.1	48.8	48.1
	粒子	51.5	54.4	52.6
	生命	65.9	63.7	61.5
	地球	45.6	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	58.9	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	52.4	55.7	54.8
	観察・実験の技能	53.0	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	54.9	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

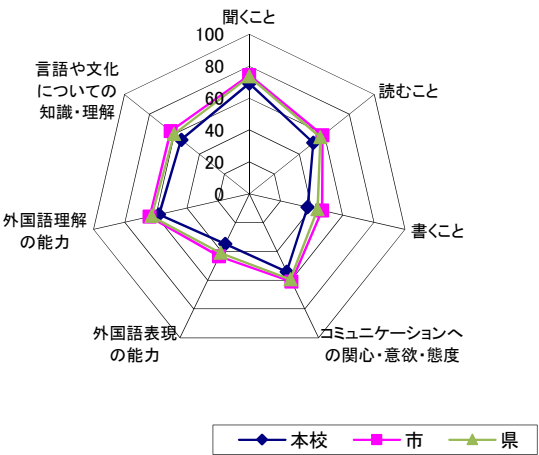
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○音の性質は、各問いについて県の平均に近い正答率であった。また、力の性質においては、グラフを書く問題で県の平均を上回った。 ●光の性質での光源と光の道筋、できる像の関係について正答率が下回っている。	定性的な内容は十分定着していると考えられるが、現象を論理的に思考し、言語化することができない。今後は、実験等を通して、物事の変化に着目し、なぜそうなのか論理的に考え、言語化する活動を授業の中に取り入れていきたい。
粒子	○全体を通して、正答率は県の平均と同等であった。気体の性質について、水素の発生方法について本校の正答率は県の平均を上回った。 ●金属に共通する特徴や、体積の推定の正答率は県の平均を下回った。	定性的な内容は十分定着しているが、定量的な問題に苦手意識を感じていると考えられる。物質の量を問われる問題では、変化した量と不変の量に着目しながら、成り立つ法則を見つけさせて、問題を解かせる支援が必要である。
生命	○全体を通して、正答率は県の平均と同等であった。特に顕微鏡の使い方や、両生類の呼吸の仕方、植物の分類についての正答率が、県の平均を上回った。 ●これまでの学習から未知のことを推測する問題の正答率が県の平均を下回った。	基本的な語句や植物の部位については、十分定着している。既習の内容から未知のことを推測したり、順序だてて物事を考える活動を授業の中で取り入れていきたい。
地球	○基本的な語句の問題の正答率は、県の平均と同等であった。 ●地層や火山の問題で、化石と環境や、マグマの粘度と火山の形など、関係性が問われる問題の正答率が県の平均を大きく下回っている。	事実から関係性を問う活動を授業の中で増やしていきたい。
	、	

宇都宮市立国本中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	69.2	74.4	73.5
	読むこと	51.3	58.7	56.9
	書くこと	37.5	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	54.1	61.0	59.4
	外国語表現の能力	34.7	43.5	41.1
	外国語理解の能力	57.9	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	54.4	62.9	60.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○絵を適切に表している英文を聞き取る問題では、市や県の平均とほぼ同じ正答率である。 ●対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題では、県の平均を下回った正答率となっている。	全体的に聞く力がついてきていて、話の状況を理解することはできる。その反面、話の流れを読み取り、それに対して適切に答える力が弱いことが読み取れる。今後授業の中で、様々な場面や状況、目的を設定し、その流れに沿った対話をする活動を取り入れていきたい。
読むこと	○語形・語法を理解する問題では、県の平均とほぼ同じ正答率となっている。 ●対話の流れと資料から、適切な語を判断するやメールの内容を把握する問題では、県の平均を下回った正答率となっている。	資料を読み取る力や、長文読解の力の育成のために、授業内でも読み取りの時間を取り、文の概要を捉えること機会を設ける。また、資料を読み取った内容や、長文の要約にも力を入れる。
書くこと	○自分の出身地を紹介する文を書く問題では、県の平均とほぼ同じ正答率となっている。 ●対話の流れに合った英文を書く問題や、与えられた情報に基づいて、3人称単数現在形の肯定文を正確に各問題では、県の平均を下回った正答率となった。	今後の授業では、既習の文法や語句を使って英文を書く機会を多く作り、英語での表現の力の育成に努め、文章を書く習慣を付けさせる。

宇都宮市立国本中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 家庭での自主学習の取り組みに対する意欲は、市や県の割合よりも高くなっている。特に、宿題や復習をしている(肯定している)生徒の割合が市や県の平均よりも高くなっている。
- 学校が休みの日の勉強時間について、2時間以上という生徒の割合が市や県の平均よりも高くなっている。学習に意欲的に取り組む姿勢をより育てていきたい。
- 毎日の生活が充実している(肯定している)生徒の割合が市や県の平均よりも高くなっている。一人一人が主役になれるような居心地の良い集団作りを続けていきたい。
- クラスは、話し合う活動をよく行っていると肯定的にとらえている生徒の割合が市や県の平均よりも高くなっている。グループ学習だけでなく、一斉授業の中でも一人一人の生徒の発言が大切にされるような指導を続けていきたい。
- 誰に対しても、思いやりの心を持って接しているで「はい」と回答した生徒の割合が、市や県の平均よりも高くなっている。「ありがとう」の言葉が飛び交うような、優しさの中で、一人一人が活躍できる学年経営を続けていきたい。
- 家で、学校の授業の予習をしている(肯定している)生徒の割合が市の平均よりも低くなっている。予習の質を高めるような指導、助言を続けていきたい。
- 授業の初めに目標をノートに書き、授業の終わりにそれを振り返るような授業が展開できていると肯定的にとらえている生徒の割合が市や県の平均よりも低くなっている。教員が授業の進め方を見直し、生徒に達成感を感じさせるような授業を行う必要がある。
- 先生は学習のことについてほめてくれる、授業でわからないことがあると先生に聞くことができるで「はい」と回答した生徒の割合が、市や県の平均よりも低くなっている。教員が、小さな成長やつぶやきを逃さないような授業を行っていく必要がある。
- 普段、2時間以上ゲームをしていると回答した生徒の割合が市や県の平均よりも高くなっている。そのことが、生活リズムの乱れに繋がったり、朝食を食べてこない生徒の割合が市や県の平均よりも低くなっていることと関係がないとは言えない。また、学習に対する意欲の二極化が心配される。インターネットに接続できる機器の使い方については、今まで以上に家庭の協力を得られるよう呼びかけていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
宇都宮モデルに基づく授業改善	生徒にとって「分かる授業」を展開するために、宇都宮モデルに基づき、めあての明示やペアワーク、グループワークなどの学習形態の工夫、授業の最後に学習内容の振り返りを全教科で実践している。	「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は市や県を上回っているが、「授業の中で、目標が示されている」、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問では、市や県を下回っており、教職員の共通実践に課題が残る結果となった。 宇都宮モデルに基づく授業改善に向け、この結果を共通理解するとともに、学力調査結果活用研修を各教科で行い、めあての提示、振り返りの時間の確保、発問の工夫などを全教科で実践する。
学びに向かう力の育成と学力の向上	定期テスト前の2週間、「家庭学習がんばりの記録」を利用し、家庭学習の時間を記入されることで、生徒自身の学習への取組状況を可視化し、個に応じて指導助言を行っている。	「先生は学習のことについてほめてくれる」、「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、いずれも市の平均を下回っている。また、「家の人と学習について話をしている」の質問についても、「はい」と答えた割合は市よりも8.8ポイント下回っている。 主体的に学習に取り組む態度の育成のため、授業改善とともに、今後も生徒・保護者の学習に対する意識の向上に努めていく。
家庭学習における学習内容の復習の習慣化に向けた指導の工夫	全学年自主学習ノートを用いた家庭学習の習慣化に向けた取組を行っている。また、復習するポイントを生徒が整理しやすいよう、各授業で、その日の学習内容の振り返りを行っている。	「家で、学校の授業の復習をしている」、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合が、市や県よりも高かった。また、「学校の授業時間以外に、平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に対し、「全くしない」が0ポイントであった。 学習の習慣化は継続的な指導の結果、十分図られてきている。家庭学習と授業の復習がリンクしてより効果的な家庭学習となるよう、各教科での授業の最後での振り返りを確実に実行していく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の質問から、難しいと感じている生徒の割合が市や県よりも多いことが分かった。	自分の考えを論理的に表現する力の育成	グループ学習やペア学習に取り組ませる前に、自分の考えや意見を持たせるための時間を作り、自分の考えや意見と他者のものとを比較しながらより良い表現の仕方について気付かせるよう、全ての教科を通して指導する。